学校だより
希望の鐘
ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

八戸市立
小中野中学校
平成３１年１月２３日（水）
No.143 文責：校長 工藤聡

## ２６年目のクラス会

昨年のお盆のことです。白銀南中に勤務していた頃の生徒から、次のような電話がありました。

「工藤先生、こんばんは。今、M子たちと会ってるんだけど、工藤先生の話で盛り上がって。工藤先生、来年３月で退職だよね？みんなで、工藤先生のお疲れさん会を正月にやりたいんだけど。１月３日、あけといて！」という内容でした。

白銀南中には開校（28年前）から３年いましたが、電話をくれたＪ子さんは２回目の卒業生で、私が担任する３年１組の副室長を務めていました。明るく朗らかで、大変面倒見のよい生徒でした。その性格もあって、現在では市内のある小学校のＰＴＡ副会長をやっているので、ＰＴＡ関係の会合では時々顔を合わせます。私も、随分先の話だなあ…と思いながらも、深く考えもせず「いいよ」と返事をして電話を切りました。よく退職者を労う会などをやったりもするようですが、それぞれいろいろな考えもある中で、私としてはこのようなお誘いはすべてお断りしていたのですが、せっかく昔の生徒がやってくれるのだから…という家族の勧めもあって、参加することにしたのでした。ただ、元旦を過ぎても詳しい時間等の連絡が来なかったので、前日（２日）Ｊ子さんに電話をしたら、「やりますよ。二次会も絶対出てくださいね」という返事でした。

いよいよ１月３日になりました。当日は、午後２時から小中野連合町内会の新年互礼会があり、会場の掃除を含めて終わったのが、午後４時半頃でした。誘ってくれる方があり、近くに席を移しての二次会にも参加させてもらったため、午後６時からの開会にはギリギリでした。

受付で会費を払おうとすると、幹事のM子さんが「工藤先生はいらない」と受け取りません。「それならお祝いを出すよ」と言っても、それも拒否されました。参加前の私の心情としては、『私の退職を理由にして、みんなでクラス会をやりたいんだろう』くらいの軽い気持ちだったのですが、少し雰囲気が違う感じがしてきました。

今回参加したのは、私のクラスだった生徒を中心に25名でした。それにプラスして、25名の中に同級生同士で結婚したカップルも２組含まれていたこともあって、２歳から小学校５年生の子ども７名も来ていましたので、総勢32名と大変にぎやかでした。挨拶をしてくれと言うので、その際に「私に思いっきり怒られた人は？」と聞くと、何と20名が挙手しました。参加した生徒の話も「いつ私に怒られた」とか「何をして怒鳴られた」という話が中心でした。確かに、何かあれば怒っていたことしか記憶にありません。さらに話題となったのが、体育祭のことでした。私の担任していたクラスは１組で、全校の縦割りでは紅軍でした。そこで、応援デモンストレーション（応援合戦）では、赤い巨大な龍を作り、それを長崎くんちのように男子が持ち、その周囲を当時流行していたＸジャパンの曲に合わせて女子がはっぴを着て踊るということにしていました。ただ、龍が炎を出しているように見せようとして、頭に発煙筒をつけたのはいいのですが、その火が龍の頭に燃えうつってしまいました。運の悪いことは続くもので、私が消化器でその火を消し終えたのは、ちょうど来賓のいるテントの目の前でした。体育祭のテーマが「燃え上がれ　５つの炎　５つの魂（５軍あったことから）」だったので、龍が燃えたのは演出だったと思った１・２年生もいたくらいです。体育祭が終わった後、校長先生や教頭先生から大変なお叱りを受けたことは言うまでもありません。もちろん、生徒はそんなことは知りませんから、26年たった今でも、忘れられない一番の思い出になっているようです。

（⇨裏へ続きます。）

小中野中学校だより 希望の籠 ひとつのつぼみは いちどしかひらかない No.143 平成31年1月23日発行

（⇨表からの続きです）

話を1月3日に戻します。一次会（私としては三次会）では、花束と江戸切子のグラス（退職の記念品）をいただきました。移動した二次会（私は四次会）には、25名中20名が参加しました。当然のように、その会費も「いらない」ということでした。乾杯の直後に、大きなケーキが登場し、参加者のお祝いの言葉を浴びながら、私が吹き消す場面まで設定していました。二次会は、30分ほどで先に帰ったのですが、家族にその様子を話すと、「至れり尽くせり（イタレリツクセリ：配慮がいきとどいて、申し分ないこと）だね」と感心しきりでした。

２週間たった先週の金曜日、M子さんから写真が送られて来ました。添えられていた手紙には、次のように書かれていました。

「工藤先生へ／先日は、お忙しい中、しかも地域の会合の後にも関わらずお時間を作って下さってありがとうございました。／小学校、中学校と分離を経験した私達の代は、たくさんの先生方や友達に出会い、貴重な『世代』だと思っています。個人的には、プールが確か３年生の夏くらいに出来て、泳げない私にはかなりラッキーでした（笑）　△△、◇◇、Ｔ子、時に▽▽とつるんでは、先生によく叱られましたね（笑）／バス遠足で、集合時間にうちらは遅刻して、学校に到着してから職員室に直行…なんてことも。今思えば、周りの先生方にも理解しがたい行動ばかりで、工藤先生にもたくさんご迷惑をお掛けしました。すみませんでした。そんなこんなですが私にとっては、工藤先生のクラスだったから、毎日が楽しくて仕方なかったのです。怒られても勉強が分からなくても（笑）／改めて思い出すのは、やはり工藤先生の授業やお話です。○○○○のこと、□□のこと…。本当に楽しかったです。たくさんのいろんな思い出をありがとうございました。／先生の第二の人生、陰ながら応援しています。お体を大切にして下さいね。／最後になりましたが、記念の写真を送らせていただきました。白銀南中での思い出の１つにしていただければうれしいです。／私は、人生の折り返し地点に来たので、早く健康を取り戻し、さらに新たな分野にチャレンジしたいと思います。／先生、少し早いですが、長い間本当にお疲れさまでした。いっぱい、いっぱいありがとうございました。」（ほぼ原文のまま）

私は、手紙にあるような“いい先生”ではなかったと、当時を振り返ってつくづく思います。いつも怒っていました。ですから、私のやり方に反発したり、私そのものが嫌いだった生徒もいっぱいいたはずです。私に手紙をくれたM子さんも、中学３年生の時はそうだったのではないかと思います。それが26年経過した今、感謝の言葉を述べているのはどうしてでしょうか。私が考えるには、中学校卒業後いろいろなことを経験していくうえで、人間として大きく成長したのだと思います。みなさんも、もしかすれば同じかもしれません。私がM子さんたちの担任だったのは、33歳の時です。今の小中野中で言えば、　　先生と　　先生の間くらいの年齢です。みなさんは、それぞれの担任の先生、学年の先生、部活動の顧問の先生に対して、どのように思っているのかはわかりませんが、小中野中の先生は、私の若い頃と比較して、私以上にみんな頑張っていますよ。ですから、みなさんも大人になったら、それぞれの先生に対して感謝することになるのだと思います。先生に対してもそうですから、もっと身近な存在であるご家族には、さらに感謝することになります。必ずです。そういうことを、中学生である今でも、時々、そして少しでも感じられたら、言い方を変えれば感じる努力ができたら、それはすごいことなのだと思います。

M子さんの手紙、とても感激しました。あまり泣かない私ですが、涙がいっぱい出ました。

**【今日のひとり言】**

●今日の内容は、少し大人の事情も含めて書きましたので、生徒のみなさんには難しい内容だったでしょうか。しかも、私ごとばかりで大変恐縮です。ただ、昔、私に散々怒られたり叱られたりした生徒たちが、それでも心温まる会を開いてくれたことが、とてもうれしく感動したので書いてしまいました。酒席のことにも触れておりますが、保護者の皆様には主旨をご理解いただければと思います。お疲れさま会をやってもらったとか、記念品をいただいたとかもそのまま書きましたが、みなさんにそうしてほしいという気持ちは、金輪際（コンリンザイ：絶対に）、毛頭（モウトウ：少しも）ありませんので、誤解しないでください。

●今日の私の似顔絵は、　年　組の　　さんに描いてもらいました。髪の毛がフサフサで、こうあればいいなあという気持ちです。本文で出てきたＪ子さんやM子さんの担任だった26年前は、もちろんフサフサだったのですが、その当時はこんなに“薄くなる”なんて、考えもしませんでした。ある時は当たり前に思えても、無くなるとそのありがたさに気がつくものですね。どんなことでも…。